葛巻高校魅力化のいま
町に関わる未来の人材づくり

高校生が小学生の遊び相手をした「まなびクラブあそびクラブ」

DMOのワークショップ

酪農家で搾乳体験

町は、葛巻高校の教育環境の充実と発展のため、高校の魅力化を推進しています。

昨年は「葛巻高校魅力化コンソーシアム」を設立し、専任のコーディネーターを配置して町民との関わりを通じた町ならではの体験メニューを生徒に提供し、魅力化に取り組んでいます。

体験で終わらない 地域とのつながり

生徒に提供している体験は、酪農家の仕事や野菜の収穫などの農業体験、町青年会と合同で行うボランティア活動、くずまき型ＤＭＯへの参加など多様です。生徒は、体験を通じて町の特色や自身の興味がある分野を学び、住民はその活動を積極的にサポートしています。

活動を企画する高校魅力化コーディネーターの山谷淳也さんは、体験させることが目的ではないと語ります。「体験を通じて高校生が地域を深く知り、町民とつながることが重要です。生徒にとって、町民の皆さんは『先生』。地域の人とつながって初めて経験が身になり、将来も地域に関わるきっかけになる」と話し、生徒が卒業後も町に関わり続けることを念頭に置きコーディネートをしています。

地元生と町外生 互いに高めあう

全校生徒の約半数が町外出身者となった葛巻高校は、地元の子どもたちのための高校であった頃と大きく変わりました。生まれ育った環境が異なる生徒たちは、互いの考え方や感じ方の違いを知り、多様性を受け入れ、刺激し合いながら高校で新たな人間関係を築いています。

山谷さんは「山村留学生や町外から通う生徒は、以前ほど特別な存在ではなくなりました。地元生と関わり、葛高生として地域に受け入れられることで、『お客様』ではなくなります。地元生も、町外の生徒の影響を受け、以前より進路の幅が広がるなど良い影響を受けていると感じます。生徒同士、まだまだ濃く関わり、成長できるはず」と話していました。

葛巻高校の魅力化 目的を地域と共有

町が高校魅力化を推進する目的のひとつは、1学年最低41人で2学級を維持し、高校を存続させることです。山谷さんは、「地域に高校が存続すること、そして卒業生が少しでも町に戻ってくることを、地域の皆さんと共通の目標にしていきたい」と今後の取り組みの目標を掲げていました。

将来町に定住したり、町外にいても町の関係人口となる人材の育成のため、これからも葛巻高校生に町民の皆さんの温かいまなざしとご支援をお願いします。

葛巻高校魅力化の情報はこちらから

高校魅力化プロジェクトホームページ

山谷コーディネーターのブログ

５Ｇで遠隔地から震災を学ぶ

葛巻高校の1、2年生12人は2月14日、勇往会館で県が主催するローカル５Ｇ（※）を活用した震災学習に参加しました。

この学習は、中山間地域の教育環境の高度化と多様な見学需要に対応するため、５Ｇを活用した課題解決モデルの実証実験として行われたものです。達増拓也県知事は「葛巻町は情報の分野でも最先端の町です。この機会を良い学びの場にしましょう」とオンラインであいさつしました。

学習は、陸前高田市の東日本大震災津波伝承館と５Ｇ環境でつながり行われました。伝承館の職員の動きに合わせて移動するロボットから館内の映像が送られ、生徒たちは実際に現地を訪問した時と同様の案内を受けました。また、３６０度カメラで高精度の映像が見られるＶＲゴーグルを着用し、展示物を見学しました。

講師の岩手大学地域防災研究センターの越野修三客員教授は「これからも防災を学び、助けられる側ではなく助ける側になりましょう」と呼び掛け、生徒たちは町にいながらにして遠方の施設や講師から臨場感をもって学ぶことができました。

山下茜（あかね）さん（1年）は、「現地に行けなくても、その場にいるかのような体験ができました。10年前の東日本大震災の時に比べて、短い期間でデジタル化が進んでいることに驚きました」と最新の技術に関心を示していました。

被災した消防車両の説明に聞き入る生徒

高校生に呼び掛ける達増知事

ＶＲゴーグルで伝承館のリアルな映像を体験

※５Ｇ（第５世代移動通信システム）は、インターネット環境における超高速・大容量通信システムで、さまざまな社会問題の解決が期待されています。

高校生記者レポート

菅野 貴大（たかひろ）（2年）

こんにちわんこそば！「感謝」、この言葉が沁みる月になりました。私はまだあと1年いるので町民の皆さんとの交流を大切にしたいです！元気にあいさつがモットーです！

3年生にはなむけ

葛巻高校では先月、予餞会が行われました。予餞会とは「予（あらかじめ）餞（はなむけ）を送る会」という意味で、卒業される3年生の皆さんに各クラスが感謝の意を込めて催し物をやる会です。県内でも予餞会を行う高校は少ないので葛巻高校の特徴の一つです。（ついでに、流行している感染症の対策での換気・マスク着用・消毒はバッチリでした！）

1、2年生は3年生の3年間の変遷ビデオなどを制作し、「感謝・尊敬・餞」を表現しました。最後にはお世話になった先生方からのビデオレターがあり、昨年と一昨年の追懐をしていました。他学年よりも各行事を盛り上げて、分け隔てなく後輩に優しい先輩の姿に、私たちはいつも惚れ、自分もそうなりたいと思わせてくれる先輩方でした。1、2年生全員に惜しまれながら送られる3年生の皆さんには尊敬を覚えます。

葛巻高校を先頭で引っ張ってきてくれた先輩と離れるのは悲しいですが、離れるのは距離だけです。第1楽章は終焉を迎え第2楽章が歩き始めています。清新か新奇かはわかりませんが、新しいものが始まる。そんな一つの節目です。